

調査レポート

今月のグラフ(2018年7月)

財の貿易しか見ていないトランプ大統領 ～ 中国のサービス収支赤字が縮小する可能性～

研究主幹 鈴木 明彦

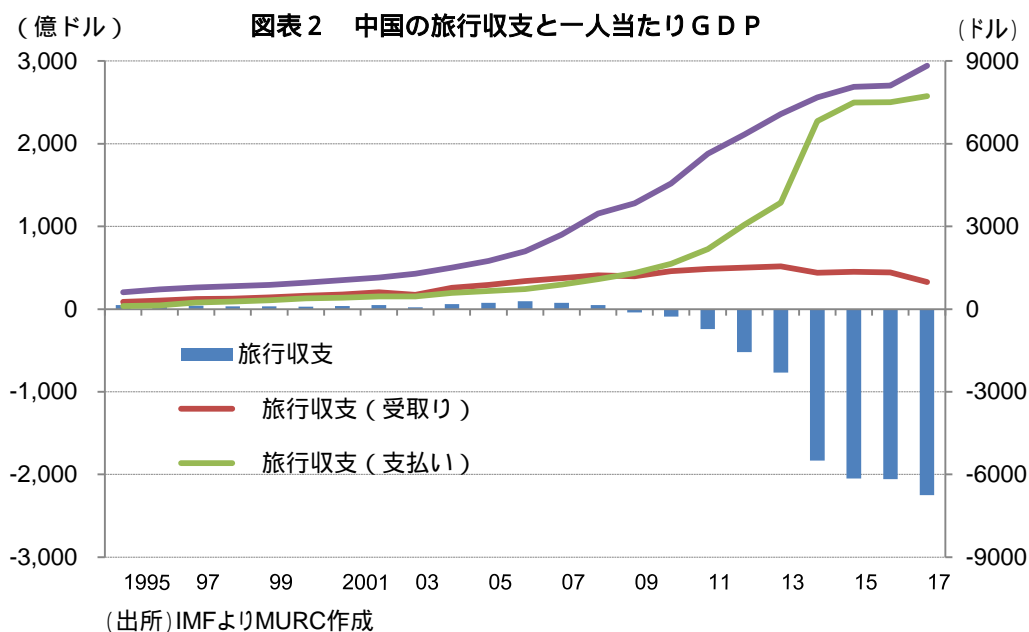
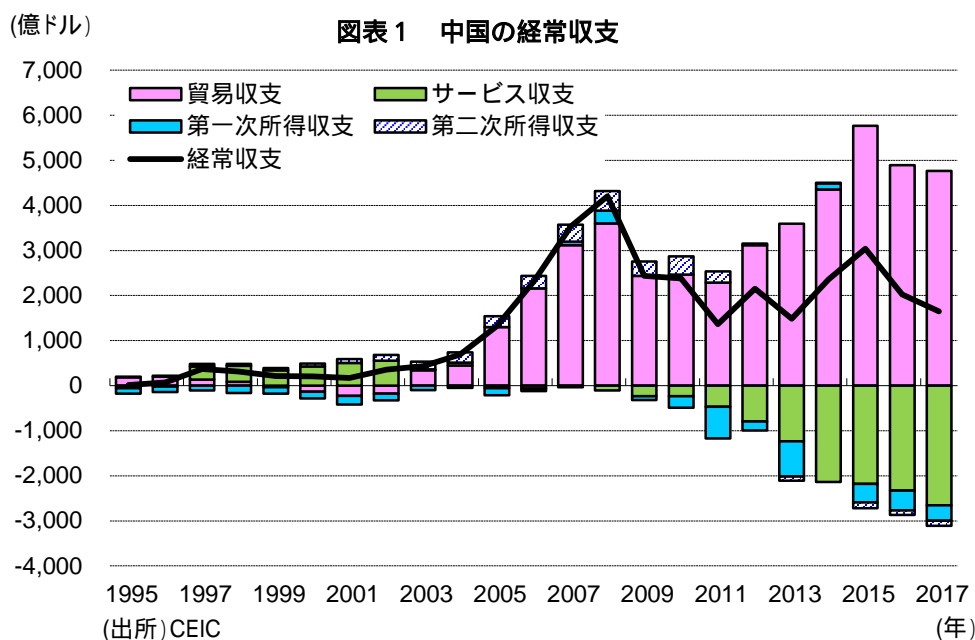
2017年の米国の貿易赤字は8000億ドルに達している。トランプ大統領は世界に貿易戦争を仕掛けてでも貿易収支の赤字を減らしたいと思っている。貿易赤字のうち半分は対中国であり、米国はその対中赤字を2年以内で半減することを中国に求めたという報道もある。そもそも無理な要求だが、米国の貿易・サービス輸出(財とサービスの輸出合計)の3分の1がサービス輸出となっているのに、財の取引だけ議論しても意味がない。トランプ大統領は、支持基盤であるラストベルト(さびついた工業地帯)と関係する財の貿易にしか興味がないようだ。

中国では貿易黒字が2000年代中頃から08年のリーマンショックまでの間に急増した(図表1)。このころ世界経済は5%という30年ぶりの高成長が続いていた。一方中国は、01年のWTO(世界貿易機関)加盟により外国企業の誘致も進み、安価な労働力を活用しながら世界の工場としての成長を遂げた。その後、リーマンショックによる世界経済の低迷によって中国の貿易黒字は一時減少するが、再び拡大して高水準で推移している。貿易黒字の推移を見る限り、トランプ大統領が不満を持つのも分からないではない。

しかし、サービスの輸出入の収支を見ると、中国では05年以降赤字が続いており、09年以降になると赤字の拡大基調が続いている。17年のサービス収支の赤字は2650億ドルまで拡大しており、貿易黒字4760億ドルの半分強に達している。この変化は重要だ。こうした変化は米中間の収支動向にも表れている。対米貿易黒字の規模に比べれば小幅ではあるが、中国の対米サービス収支は赤字が続いており、規模も拡大している。

中国のサービス収支の赤字は何によってもたらされているのか。実は、旅行収支赤字の拡大でほとんど説明できる(図表2)。中国人の海外旅行のための支出を示す旅行収支の支払いが徐々に拡大していたが、00年代後半になると増加ペースが加速してくる。この動きは所得水準(一人当たりGDP)の上昇に伴うものであり、富裕層を中心に始まった海外旅行が、所得水準の高まりとともに一般の人にも広がりを見せてきたと推測できる。日本で評判の中国人の爆買いも旅行収支の支払いに反映されている。中国は貿易取引で稼いだ黒字を海外旅行などサービス輸入の拡大で世界に還元してきたことになる。

仮に、トランプ大統領の思惑どおりに中国の貿易黒字が減ってきて、今後はサービス収支の赤字が縮小してくるかもしれない。貿易収支で黒字を稼げなくなったのだから、海外旅行は自粛すべきだというムードが広がっても不思議ではない。まず米国への旅行が自粛の対象になるだろうが、日本を含めて海外旅行全体が自粛されるかもしれない。あるいは、中国政府は関税引き上げの影響を抑えるために、人民元の下落を容認するかもしれない。この場合も中国人は海外旅行を控えることになり、旅行しても海外で使えるお金は少なくなる。米中間の貿易摩擦はさまざまなところに影響してくる。



- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください。